

令和2年（2020年）11月16日

## 第2回進路説明会 挨拶

校長の矢野でございます。本日はお忙しいところおいでいただきまして、ありがとうございます。体育大会、文化祭で3年生の生徒は素晴らしい演技、合唱を披露し、改めて最上級生の凄さ、素晴らしさを職員、後輩たちに見せつけたところです。きっと保護者の皆様も同じように思われたことでしょう。

また、先日は修学旅行の代替行事が行われ、日帰りという縮小した形になりましたが、仲間と1日楽しく過ごせたことは良かったと思っています。

さて、暦も11月となり、進路決定まであと1ヶ月、私立高校の願書出願も2ヶ月後となりました。心配されていました高校説明会なども何とか行われ、とりあえず、高校側からの情報を中学生が受け取れないという事態は回避できたと思います。今後は学年、担任と連携を密にしていただき、進路決定に向けてのご家族の合意形成をよろしくお願ひします。

私の方からさらに2点つけ加えます。1つは2月に行われます「推薦入試」のことです。名前のとおり「推薦」入試ですので学校からの「推薦」が必要です。推薦基準は大きく2つ。「人物」と「成績」です。我々も1つの受検機会である「推薦」を希望してきた場合、認めていきたいのが人情です。しかし推薦は「学校」レベルの問題となり、「個人」レベルで考えておられる保護者の方や生徒と衝突することが稀にあります。例えば人物的に問題がある、又は明らかに成績が達していない生徒を学校が推薦して受検させると、高校側は二見中学校の推薦基準を信頼しなくなり、本校からの受検生全員が厳しいふるいにかけられることになります。またその影響は後輩たちにも及ぶとともに、「あの成績でも推薦されてる」「あんなことしても推薦される」となると学校の秩序が乱れ、結局全体へ大きく影響します。そういう事情をご理解いただくとともに、推薦入試受検を考えておられる場合は、特に一層の学習と引き締めた生活態度をお願いします。

もう1つは外部のスポーツ活動などから監督が「私が高校の顧問を知ってるから話をつけましょう」「よろしくお願いします」となって、学校のあざかり知らぬところで、進路の話が進んでいくことは避けてください。これは前回の説明会でもお話ししましたが、進路は中学校と高校を通さず決まることはありません。結果的に高校の顧問が「学校に話したのですが、ダメでした。一般入試を受けてくれと言われました」と普通の結果を持ってくるときもあり、巻き込まれる生徒の方こそいい迷惑です。スポーツに限らず、学校以外のところで推薦の話がある場合は必ず早く中学校に知らせてください。

それでは私の話はこれぐらいにいたしまして、この後は学年に任せたいと思います。進路に向けて子どもたちが頑張れるよう、学校、保護者の皆さんで精一杯応援していきましょう。以上です。